

特別寄稿

# AKP 50周年

AKP同志社留学生センター

Associated Kyoto Program 19

50周年を迎えました

Associated Kyoto Program (AKP) は1972年のプログラム開始から50周年を迎えました。これもひとえ



1982-83 Chen Year

に同志社大学をはじめ、ホストファミリーおよび関係者の方々のご支援の賜物と心より感謝いたしております。これを機に教職員一同決意も新たに鋭意努力いたす所存でございますので、今後とも倍旧のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、AKP加盟校の1つ、ウィットマン大学のAKP理事、そしてAKP理事長およびAKP同志社留学生センター所長経験者であるアキラ・ロン・タケモトが、同志社大学とAKPプログラムの友好関係への長きに渡る貢献から、AKPの50周年を記念し、同志社大学より名誉学位（名誉文化博士）を授与していただきましたことに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

AKPについて

AKPは、アメリカ・マサチューセッツ州の公益法人で、13の加盟大学により構成される日本留学プログラムです。アメリカの大学における日本留学プログラムとしては最も長い歴史を持ち、1972年のプログラム開始以来、日本文化と社会に深く根ざした留学体験の場を提供し続けます。

AKPアメリカ事務局

アメリカ本国においては、AKPアメリカ事務局が留学申し込み受付、選考、渡航手続きといったアメリカでのプログラム全般の運営を行い、また理事会がプログラムの方針決定を行っています。

AKPアメリカ事務局は現在ポモナ大学にあり、現職教員のAKP理事長と、プログラムアドミニストレーターが在職しています。

△AKP同志社留学生センター▽

日本国内においては、AKP同志社留学生センターが同志社大学今出川キャンパス内でプログラムの運営を行なっています。理事会で任命された所長を最高責任者として、専任日本語講師、客員・非常勤講師、事務職員により構成され、クラス運営、教務などの学業面、ホームステイなどの生活面と多岐に渡る支援を行います。センターでは、毎年約45名の学生を受け入れ、学生は4か月間（秋学期・9月～12月、春学期・1月～4月）あるいは8か月間（9月～翌年4月）、ホストファミリーと生活を共にしながら、日本語集中コースや日本関連の科目を受講します。AKPで日本の社会・文化を身近に経験し、高い日本語力と広い視野を身につけた留学生の多くが、大学卒業後、知日、親日家として広く国際交流に貢献しています。

△13の加盟大学▽

米国の教育機関である13のリベラルアーツ・カレッジ

が加盟校として参画しています（2022年時点）。AKPの誕生から現在に至るまでの成果は、加盟校の途切れることのない連携によるところが非常に大きくなっています。

各大学は、教員1名をAKP理事に指名し、各理事はAKPの運営に貢献するだけでなく、AKPの加盟校代表として、学生や留学オフィスなどの連絡役も務めます。

- ・アーモスト大学\*
  - ・バックネル大学
  - ・コルビー大学
  - ・コネチカット大学\*
  - ・マウントホリヨーク大学\*
  - ・オベリン大学
  - ・ポモナ大学
  - ・スミス大学
  - ・ウエズリアン大学\*
  - ・ウィットマン大学
  - ・ウィリアムズ大学\*
- \*は創立メンバー



1990-91 Takemoto Year

## AKPとAKP同志社留学生センターの歴史

1960年代中頃、全米のリベラルアーツ・カレッジでは、日本への関心が高まっていました。そのような背景のもと、アーモスト大学のレイ・ムーアは学生を日本に1年間留学させるプログラムを作ろうとしました。その頃、同様のプログラムを作ろうと考えていたカールトン大学のジョン・ペリーと協力関係を結び、そこにコネチカット大学、マウントホリヨーク大学、ウエズリアン大学、ウィリアムズ大学が合流し「Associated Kyoto Program」は誕生しました。そして、アーモスト大学と歴史的につながりの深い同志社大学にAKPの学生は受け入れられました。

1972年8月31日、初代所長ピーター・フロスト（ウィリアムズ大学）が、第1期生を率いて留学へと旅立ちました。初年度は「期待」と「不安」の入り混じったものとなりましたが、「期待」がその後のプログラム継続への原動力となりました。

1973年10月に開かれた初のAKP理事総会では、プログラムの指針となるAKPの基本原則、「カリキュラムは加盟校の日本専門家が管理運営する」、「日本語の学習、ホームステイ、日本の歴史や文化に関するコースを必須とす



2007-08 春学期研修旅行（伊勢）

る」、「リベラルアーツの教育理念に則って日本について学ぶ」の3つが規約に示されました。

1974年、2代目所長レイ・ムーアの代には、同志社大学の秋山健教授（初代AKP同志社リエゾン兼コンサルタン

ト）のお力添えで、松山義則学長（当時）より、教室のほか、AKP同志社留学生センターの拠点となる、クラーク記念館1階、南西の部屋の使用が認められました。その後、1983年には同志社大学上立売館（現寒梅館）、1987年には長きにわたる拠点となる待辰館へと移転し、1995年の阪神・淡路大震災により扶桑館へ2年間、そして2022年の耐震工事により致遠館へ8ヶ月間の仮移転をしました。

2010年前後には、アメリカでの多忙なカリキュラム



2019-20春学期 京都市市民防災センター

学期制留学のオプションを導入しました。

2020年春学期には、全世界における新型コロナウイルス感染症拡大のため、1か月の留学期間を残し学生を緊急帰国させ、オンライン授業で履修課程を修了するという決断をしました。その後、水際対策による入国制限が続き、設立から初めてプログラムの長期中止を余儀なくされました。しかし、様々な制約がある中でも、加盟校の授業協力や学生の日本語学習と文化交流を支援するため、同志社大学、同志社女子大学の学生の協力を得て、言語パートナー

に海外経験を柔軟に組み込めるようにと、より多くの学生が短期、または学期制留学を選択するようになり、1年単位の留学プログラムに対する学生の関心は薄れていきました。こうした学生の要望に応えるため、2014

—2015年度より

シップや交流会など、様々なオンライン活動を行いました。2022年秋季期には念願のプログラム再開が叶い、36名のAKPの学生が今出川キャンパスでの留学生生活を満喫することとなりました。残念ながら、AKPの基本原則となる「ホームステイ」は新型コロナウイルス感染症などの観点から、断念することとなりました。しかし、2023年春季期からはホームステイを再開し、AKPにも新型コロナウイルス感染症拡大以前の日常が戻りつつあります。

## AKPと同志社大学

AKPは設立当初から現在に至るまで、同志社大学と友好な協力関係を築いてきました。同志社創立者の新島襄先生はAKP加盟校の一つ、アーモスト大学の卒業生で、両校には同志社創立時からの深い交流が今なお続いています。

AKPは独立した組織ですが、同志社大学から多くのご協力とご支援を受け運営しています。同志社大学とAKPとの教育協力協定により、同志社大学がAKPの学生ビザスポンサーとなり、AKPの学生は日本語・日本文化教育センター特別学生として受け入れられています。そして教

室やその他の充実した学習環境、同志社大学のイベント、サークル活動へ参加する機会など、有意義な留学生活を送ることができる環境、教職員のオフィス、学生ラウンジなどセンター専有施設のほか、加盟校からの客員講師の受け入れおよび住居等への協力も受けています。

また、同志社大学生が外国協定大学派遣留学制度のもと、AKP加盟校で学ぶことができるほか、AKP加盟校から同志社大学に研究者が派遣され、講義を行うなど学術面での交流も行われています。

カリキュラム面では、同志社大学との合同科目、「ジョイント・セミナー比較文論」が秋学期に開講されています。これは、同志社大学の学生とAKPの学生が共に受講するコースで、多彩なゲストスピーカーによる講義や討論を含む授業が英語で行われ、貴重な知的交流の場となっています。



2018-19秋学期同志社の学生ボランティアの皆さんと

## AKPのビジョン

座学に、フィールドトリップやホームステイといった京都での実体験を組み合わせるといふリベラルアーツ教育の伝統を踏襲します。そして日本に対する長期的視点に立った知的好奇心、また、異文化に対する敬意と理解、さらに現代のようなグローバル化の進んだ世界で自己の目的を果たせるような異文化間コミュニケーション能力を育成します。

## AKPでの体験

△日本の家庭でのホームステイ▽

AKPでは、設立当初から学術面の充実と同様にホームステイを重要な留学経験と考え、原則としてすべての学生がホストファミリーと生活を共にします。日本の家庭で生活する



2013-14春学期クラスフィールドトリップ  
(大阪人権博物館)



2019年春学期ホストファミリーと

ことは、言語、文化、習慣を直に体験し、より深く理解する最良の機会といえます。また、成長期の若者が自分とは異なる文化や習慣を受け入れ適応していく過程で、寛容と調和を学び、成熟した人格を形成していく上でも大きな役割を果たしています。そして多くの学生がプログラム終了後、思い出に残る有意義な経験の1つとしてホームステイを挙げています。ホストファミリーは希望登録制で、ホームステイは多くの方の善意、国際理解、社会貢献への熱意により支えられ実現しています。

#### △日本語集中プログラム▽

日本語集中コースは、会話、文法、作文、読解など総合的な日本語力を高めることを目的とし、月曜日から金曜日まで毎朝2時間授業が行われます。クラスは少人数制で、

学生の能力に応じた指導が実施されています。

△客員教員と  
関西在住の教員による選択

#### 科目▽

選択科目では、加盟校からの客員教員や関西在住の教員による、各科目週2コマ（1コマ90分）の講義が行われます。講義内容は学期ごとに変わり、主に日本に関する文学、歴史、宗教、美術史、経済、政治などの文系科目のほか、化学、生物などの理系科目が開講されることもあります。このような授業が、各学期4～5科目開講され、学生はそこから2科目を選択し受講します。講義はアメリカの大学と同様に英語で行われますが、史跡文化財見学や伝統芸能鑑賞などのフィールドトリップ（校外見学）も多く実施され、京都で学ぶ利点を大いに生かした授業が行われています。

#### △課外文化活動▽

学生個人が興味ある分野で習い事やボランティアを経験しています。



2022-23 秋学期日帰り旅行（天橋立）